拝二小だより

～ かけはし ～

昭島市立拝島第二小学校
校長　小瀬　和彦
令和２年 12月号　No.９

この一年を想う～「学校は子供が主人公」「学校ってどんなところ」～

校　長　小瀬　和彦

令和２年、４月６日始業式、入学式、久しぶりに子供たちが学校に登校してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により、３月から臨時休校が続き、全校児童が集まるのは久しぶりでした。きっと、瞳を輝かせた子供たちが、登校してくるだろうと楽しみにしていました。しかし、子供たちの様子が、いつもと違います。どこかに違和感がありました。その違和感は子供たちが、始業式・入学式後、再度臨休校になることへの想いからだと感じました。

臨時休業期間中、学校は主人公がおらず、静まり返っていました。輝く瞳も、元気なあいさつ、爽やかな笑顔もありません。この休業期間を通して、**「学校は子供が主人公！」という、そんな当たり前のこと、「有り難さ」を思い知らされました。当たり前のことが、実は当たり前ではなく、「有る」ことが「難しい」ことだと。**

６月に入り、学校が再開しました。戸惑いを隠せなかった子供たちも、日が経つにつれ、輝く瞳、元気なあいさつ、爽やかな笑顔が学校に戻ってきました。

６月の中頃、体力調査で「シャトルラン」の記録をとりました。友達が記録を更新していく様子を見て、拍手が沸き起こり、「がんばれ！」の声援が上がりました。その声を聞いて、さらに記録を伸ばそうとする、がんばる子供の姿がありました。

また、友達がマット運動で後転ができた瞬間を見て、「自分もがんばるぞ」と、やる気をみなぎらせる姿がありました。

10月のある日には、算数の図形の合同条件の学習で、難しくて学習がとまってしまっている友達がいました。その友達に何とかできるようになって欲しいと、丁寧に教え、問題が解けたとき、そこに二人の最高の笑顔がありました。

また、11月のある日には、二人の子供の間で、取っ組み合いのケンカがありました。丁寧に、そのわけを聴いてみると、大きな勘違いがあることが分かりました。お互い、納得すると、握手する二人の子供の姿がありました。

学校があることで、子供同士の関わり合いが生まれます。学び合い、教え合いが起こります。もちろん、ケンカやトラブルも起こりますが、これは子供たちの大きな成長のための大切な肥（こ）やしになります。子供の成長のために学校は欠かせません。

人と関わることで、学び合い、教え合い、また時としてトラブルに巻き込まれることで、人は磨かれていきます。子供たちには学校が必要です。

「学校は子供たちが主人公です」。この臨時休業期間があったから、こんな当たり前のことが、「有り難い」ことだと気付くことができました。この一番大事な当たり前をしっかりと心に刻み、過ごしていきたいと思います。

「よーし、明日も子供たちが学校に来てくれる、がんばろう！」